

1. イノベーション・コースト構想は、浜通りを中心とする地域の自立的な地域経済の復興に向けて、世界に誇れる新技術や新産業の創出等を通じた働く場の創出を目指すもの。その実現のためには、魅力あるまちづくり、地域づくりもあわせて行われることが不可欠ではないか。そこで、国、県、市町村がそれぞれ検討している拠点やプロジェクトについて一体的に捉え総合的に推進していくこと、また、避難指示が出されている現状や放射線量の現状等を踏まえ、短期、中長期に分けた取組を検討・実施していくことが必要ではないか。
2. 短期的には、
 - イノベーション・コースト構想の拠点のうち早期に具体化するものについては、その立地選定に際して、避難指示の解除を含め必要な事業・生活環境の整備が行われていることが必要でないか。
 - 構想の拠点を中心とした働く場(ものづくりやサービスはもちろん農林水産業も)の集積を図るため、起業支援のための施策の活用、企業誘致の推進、事業再建に向けたきめ細かな支援、特区制度の活用などを進めることが必要でないか。
 - 帰還する住民や新たな住民の生活・事業環境の向上につながる復興拠点を整備することが必要でないか。各復興拠点は持続可能であること、基幹インフラ等によりネットワーク化され、互いに機能面で重複が排除されていることが大切でないか。
 - ハード面での整備だけでなく、若者も含めたコミュニティの再生、人づくり、文化・伝統の継承・創造などソフト面での取組を後押しすることも必要でないか。
3. 中長期的には、
 - 浜通りを中心とする地域全体として、中長期的に、働く場(ものづくりやサービスはもちろん農林水産業も)、医療、福祉、買物、教育など生活に必要な機能をいかに配置していくかについて、今後の人口見込みや事故前の働く場としての福島第一原子力発電所の位置付けなどを勘案して、広域的な視点から検討し、それを具体化していくことが必要でないか。
 - 広域的な視点でのまちづくりを進める過程で、市町村の境界を超えた広域での行政連携も検討することが必要でないか。
 - イノベーション・コースト構想の拠点のうち具体化に向け更に検討が必要なものについては、上記の検討を踏まえ、立地選定を行うことが必要でないか。

構想の具体化を進めているプロジェクトのスケジュール(案)

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	その後
早期に事業化を目指すもの <small>※未定について調整が完了した場合</small>	ロボットテストフィールド※	詳細を検討	平成28年度以降事業化			
	産学官共同研究室※ (ロボット)	詳細を検討	平成28年度以降事業化			
	情報発信拠点	詳細を検討	平成28年度以降事業化			
	スマート・エコパーク	詳細を検討	平成28年度以降事業化			
事業化に向け更に検討が必要なもの	技術者研修拠点 (廃炉人材)	詳細を検討し、平成29年度以降事業化				
	技術者研修拠点 (防災)	詳細を検討し、平成29年度以降事業化				
	産学官共同研究室 (放射線関連分野)	詳細を検討し、平成30年度以降事業化				
	大学教育拠点	詳細を検討し、平成30年度以降事業化				
	ハイテクプラザ 浜通り分所	詳細を検討し、事業化				
一部事業化に着手済みだが、更に検討が必要なもの	エネルギー関連産業プロジェクト	詳細を検討し、平成28年度以降、順次事業化				
	農林水産プロジェクト	詳細を検討し、平成28年度以降、順次事業化				